

# 欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2019 年 9 月号掲載

## 馬耳蘭風 —オランダ奮闘記—

佐々紫苑

Shion Sassa



オランダからトレーラーで2時間かけ、ドイツのラストラップで開催されたインターナショナルの試合に行ってきました。障害馬術は、一頭一頭が順番にスタートし、そのタイムを競います。落馬したりコースを間違えて走行すると審判棟から合図があり、その場で走行をやめなければならない『失権』となってしまうのです。

この合図、日本ではボタンで「ジリリリ」という目覚まし時計のような電子音を鳴らすことが多いのですが、ヨーロッパでは



明松寺馬事公苑所属

### ◆佐々紫苑

(さっさ・しおん)

1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。大学では4年連続で学業優秀賞を受賞。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

「カーン」という澄んだ、まるで教会の鐘のような音が鳴らされます。広い会場に響く美しい鐘の音とは裏腹に、ガックリとうなだれて退場する選手の姿は何とも対照的。この鐘を、審判棟を見上げて発見しました。窓から長いひもが伸びていて、その先にかわいらしい本物の鐘が1つちょこんとぶら下がっています。そのすてきな音は審判員の手でまるで神社の鐘を鳴らすように、ひもを引っ張って鳴らされていたのです。設備の整った大会で見つけたアナログな光景に、思わず笑ってしまいました。

ドイツでの大会の結果は上々で、走行停止の鐘の音を聞くことなく、愛馬Quandoとともに2位に入賞しました。そしていよいよ短い夏も終わり、ヨーロッパは寒さとともにインドア大会のシーズンに突入します。



小さいけれど、音は大きく響きます

(本人提供)

## Let's enjoy Dressage

高田茉莉亜

Maria Takada



アイリッシュアラン乗馬学校所属

### ◆高田茉莉亜

(たかだ・まりあ)

1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

ドイツでのトレーニングは、屋内馬場ですることがほとんどです。天気が良い日の私の楽しみは、トレーニング後に愛馬と外へ散歩しに行くこと！ 広い放牧場のそばを歩いているとき、必ず挨拶に来てくれるのが、春から秋にかけて『昼夜放牧』をされている2歳馬たち。挨拶ぐらいで済めばいいのですが、たまにピョンピョン跳ねながら追いかけてくるのはじめるので、愛馬が便乗しかけることも(笑)。ハラハラドキドキのお散歩です。

2歳馬といえば、競馬では新馬戦に出走する年齢ですが、馬術では3歳で鞍付けを行うので、まだまだ何も知らないお年頃。また、馬によって鞍付けをしてから成長していく過程も全く違います。すぐに人が鞍の上に乗ることができて、3種の歩

法(常歩・速歩・駆歩)を習得する馬もいれば、人が乗ることさえ嫌がる馬までさまざまです。ただ、どの年齢の馬に対しても言えるのは、人がいかに真摯に接するかによって、人馬の信頼関係が大きく変わってくるといえる点。そんなことを日々感じています。



今年は2頭の2歳馬が昼夜放牧されていました。彼らの成長が楽しみです！ (本人提供)